

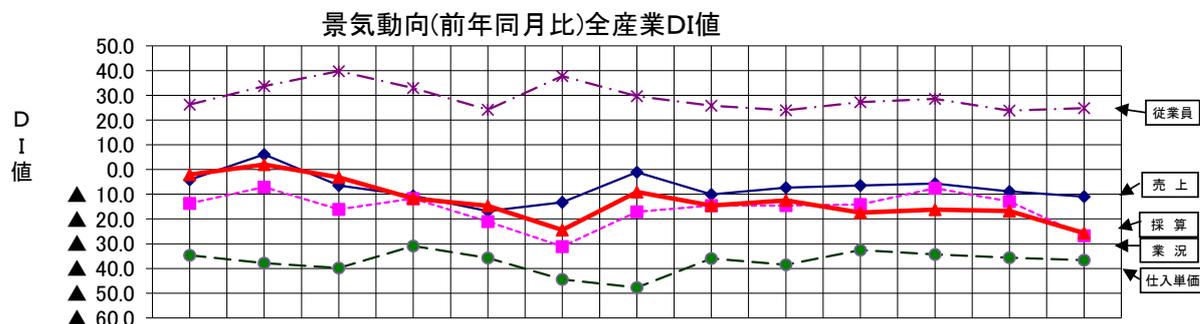
早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 10月分

【10月の概要】景況感は下降傾向が続き、先行きは売上の悪化で不透明感が広がる

9月の業況判断に比べると、売上D I・採算D I・業況D I・仕入単価D Iともマイナス幅が増加し、従業員D Iはプラス幅が増加した。採算、業況とも急激に悪化している中、仕入価格を売価に転嫁できない状況や、最低賃金の上昇等の影響で人件費・外注費も増加しており、固定費の増加で厳しい状況となっている。

先行きについては、9月に比べ、売上D I・採算D I・業況D I・仕入単価D Iはマイナス幅が増加して景況が悪化、従業員D Iはプラス幅が減少した。

働き方改革に対応するための経費増や消費税の影響がどの程度出てくるか不透明な状況であり向こう3か月の先行き見通しでは、売上D Iが大幅に悪化し慎重な見通しが強くなっている。



【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2018年10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	2019年10月
売上	▲ 4.2	▲ 6.1	▲ 6.5	▲ 10.6	▲ 16.8	▲ 13.3	▲ 1.1	▲ 10.1	▲ 7.3	▲ 6.5	▲ 5.7	▲ 8.9	▲ 10.9
採算	▲ 13.7	▲ 7.1	▲ 16.1	▲ 11.7	▲ 21.1	▲ 31.1	▲ 17.1	▲ 14.6	▲ 14.6	▲ 14.1	▲ 7.6	▲ 12.9	▲ 26.7
業況	▲ 2.1	▲ 2.0	▲ 3.2	▲ 11.7	▲ 14.7	▲ 24.4	▲ 9.1	▲ 14.6	▲ 12.5	▲ 17.4	▲ 16.2	▲ 16.8	▲ 25.7
仕入単価	▲ 34.7	▲ 37.8	▲ 39.8	▲ 30.9	▲ 35.8	▲ 44.4	▲ 47.7	▲ 36.0	▲ 38.5	▲ 32.6	▲ 34.3	▲ 35.6	▲ 36.6
従業員	26.3	33.7	39.8	33.0	24.2	37.8	29.6	25.8	24.0	27.2	28.6	23.8	24.8

売上D Iは2.0ポイント、採算D Iは13.8ポイント、業況D Iは8.9ポイント、仕入単価D Iは1.0ポイントのマイナス、従業員D Iは1.0ポイントプラス幅が広がった。

全産業平均D I - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
8月	▲ 1.9	▲ 16.2	▲ 19.1	▲ 37.1	29.5
9月	▲ 5.0	▲ 22.8	▲ 22.8	▲ 31.7	28.7
10月	▲ 14.9	▲ 24.8	▲ 23.8	▲ 33.7	23.8

先行き見通しでは、売上D Iが9.9ポイント、採算D Iは2.0ポイント、業況D Iは1.0ポイント仕入単価D Iは2.0ポイントのマイナス、従業員D Iは4.9ポイントプラス幅が減少した。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	建設	消費増税の影響で売上減少となった。
	管工事	慢性的な人手不足による人件費・外注費の上昇が、採算悪化の要因となっている。
製造業	食品	10月以降、消費増税の影響で業況は不透明である。
	機械	繁忙期に入っているが、全体として人手不足で外注先の確保が容易でない。
卸売業	紙製品	消費増税の駆け込みが9月にあり、反動で10月は売上減となった。
	食品	仕入価格は高止まりしているが、それを売価に転嫁できず厳しい経営が続いている。
小売業	食品	台風19号の被害の影響で、野菜の仕入価格が高騰し採算に影響を与える。
サービス業	広告	人件費の高騰、消費増税、働き方改革に伴う外注費などコストが増加している。
	ソフトウェア	軽減税率対応が一段落し、増税後の受注が不透明。
	タクシー	売上が減少している中、最低賃金の見直しなどにより採算面で厳しい状況が続く。